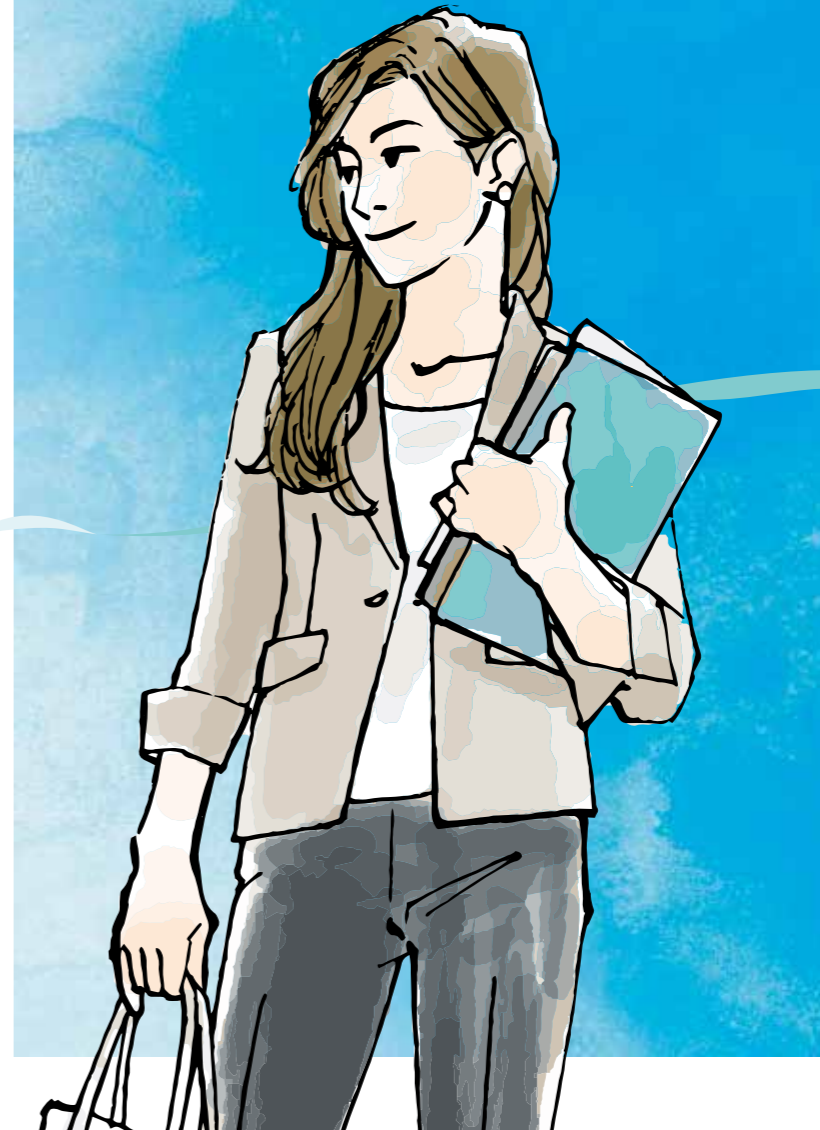


ひと尋の会

V I R T U A L C A F E

V E R S I O N

～ 4 ・ 5 ・ 6 ～



第4回 小 児 科 学

第5回 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学

第6回 呼吸器・感染症内科学



新潟大学医学部医学教育センター

ダイバーシティ支援推進室

ひと尋の会

新潟県女性医師総合支援センター新潟大学医学化分室

ひと尋の会について



染矢 俊幸 先生

新潟大学医師・医学研究者・医学生のためのキャリア支援の会
「ひと尋の会」会長
新潟大学医歯学系長・医学部長

新潟大学旭町キャンパス医師・医学研究者・医学生のキャリア支援の会「ひと尋の会」発足に寄せて

皆様には宮崎駿の「千と千尋の神隠し」の千尋の名前に使われている尋の字でお馴染みかもしれませんが、「尋（ひろ）」はもともと「人が右手と左手を広げた長さ」という単位を表す漢字です。その「右手と左手を広げている様子」から、両手をいっぱい広げて子どもたちを迎え入れる、困っている人を受け入れるという思いを込めて、会の名称といたしました。また、「尋」が長さの単位を表すことから「空間の広がり」「どこまでも続く可能性」や、「尋ねる」という言葉にも使われるように「深い道理をきわめる」といったイメージも名称に込めています。

少し難しい話になりますが、仏典には「わずか一尋のこの身」という言葉があります。一人の力は微かであっても、まずその一人が責任を持って、両手をいっぱい広げ誰かを受け入れること、そしてその輪が十尋、百尋、千尋と広がり、多様性を広く受け入れる社会となることを願っての命名です。

働く意欲はあっても子育てのために復職できない、親の介護と仕事を両立したい、病気をもちながらも治療と仕事を両立したい……など様々な背景を持つ人々が、お互いを認め合い、励まし合うことができる社会。各自の多様性を受け入れ、その能力や経験を認めて、広く活躍の機会を与えることができる社会は、人に優しいと同時に、技術革新の原動力にあふれ、結果として大きな成果をもたらすと言われています。

「ひと尋の会」は、男性、女性を問わず年齢の別なく集い、キャリアをめぐる医師・医学研究者・医学生の多様な意見を語り合う場、情報を交換する場、です。この会を通して、皆さんがそれぞれの経験や知恵を寄せ合い、助け合い、新潟の医療圏を、ひいては医療を通じて新潟の街をよりよいものに変えていっていただきたいと願います。

小児科学教室



齋藤 昭彦 先生

新潟大学医歯学総合研究科
小児科学教室 教授

小児科学教室 目次

入月 浩美 先生	新潟大学 ゲノム医療部遺伝医療センター 助教	P04
馬場 みのり 先生	新潟大学医歯学総合研究科 小児科学教室	P06
羽深 理恵 先生	新潟医療生活協同組合 木戸病院 小児科 医師	P08

メッセージ

小児科は、女性の比率が高い専門領域の1つで、日本小児科学会の女性会員の割合は約4割です。私は10年以上、米国の大学や小児病院で小児科医として働いていましたが、病院、学会などでの活動で、女性医師の活躍は著しく、性別の違いを意識したことはほとんどありませんでした。そこで目の当たりにしたのは、女性医師、子育てをする医師の活躍を社会全体でサポートする様々なシステムです。国内でもその様な動きが少しずつ見られてきましたが、自らが経験したことを含めて、新潟大学でも、この会の活動を通じて、女性支援、子育て支援ができる体制作りを皆で作りに上げていきたいと考えています。

教室の取り組み

新潟大学小児科学教室は、女性の教室員が全体の35%を占めています。女性には、妊娠・出産など、男性が経験できないライフイベントがあります。その前後には、当然、時間的、そして身体的な猶予期間が必要です。一方で、女性の小児科医としてのキャリアを考えた際、仕事と妊娠・出産、そしてその後の子育てとのバランスが重要です。そのバランスをとるために、新潟大学小児科の関連施設の多くでは、勤務時間に制限をつけた女性支援枠を設け、妊娠・出産後の女性医師の復帰の支援を行っています。また、小児科診療の実践のためのBasic Core Lectureを年4回行い、知識、技術のアップデートを行い、復職の支援をしています。

一方で、子育て支援は、小児科医として、自らの小児科医のキャリアに大きく役立ちます。したがって、女性だけではなく、男性も積極的に参加する必要があると考えています。また、両親などの高齢者の介護なども支援が必要です。この様に通常業務の中で、子育て、介護など、支援のリクエストがある際には、男女にかかわらず教室として全面的にサポートをしています。

教室の目標の1つに、「Diversity（多様性）」をもつ教室があります。性別に関係なく、色々な背景を持つ人が、色々な場面で活躍できる教室、そして、女性支援、子育て支援に対して、教室全体でサポートできる教室を目指し、この課題に取り組んでいます。





Hiromi Osuzuki
久月 浩美

ゲノム医療部遺伝医療センター 助教

研究テーマ

小児期に発症する遺伝性の希少疾患の病態解明にかかわる研究をしています。

ちょっと息抜き

日々、時短の家電に助けられています。お掃除ロボットも大活躍です。食材の買い出しも大変なので、生協や食材配達サービスを複数利用しています。

医師・研究者を目指す皆さんへ

医療も医学も、自分で道を選んでいくことができる分野です。目標をもち続けることは結構大変で、楽な方に流されることもあります。寄り道しながらでも自分が今やれることを地道に積み重ねていくと、いつの間にか目標にまた一歩近づくことができます。

皆さんのこれからのますますの活躍を応援しています。

大切な事

子供との時間は何事にも代えがたく、毎日の成長を楽しんでいます。夜は長女・次女と一緒に習い事の練習をするのが最近の楽しみです。一番下の子は、ひたすらスキンシップです。チューしないで、ギュッはいいよ、と言われていました。

略歴

- 2008年 新潟大学医学部医学科卒業
- 2009年 初期研修中に第1子出産
- 2010年 新潟大学医学部小児科学教室 入局
- 2013年 第2子出産
- 2014年 埼玉医科大学ゲノム医学研究センター
基礎医学の国内研修
- 2016年 新潟大学医歯学総合病院 小児科、
小児科専門医取得
- 2017年 第3子出産
- 2020年 新潟大学医歯学総合病院 遺伝医療支援
センター、臨床遺伝専門医取得
- 2021年 博士課程修了
- 2021年 新潟大学医歯学総合病院 ゲノム医療部
遺伝医療センター 助教

キャリアについて

私は今、小児科医と遺伝専門医として、日々の臨床に関わらせていただいています。医学部に入る前から、遺伝子への漠然とした憧れがあり、長年の紆余曲折を経て、今ようやく少しずつ自分の希望を実現できているのかなと思っています。

小児科医としての私のサブスペシャリティは、先天代謝異常症を中心とした遺伝性疾患です。数年前、他大学の研究施設に国内留学する機会にも恵まれ、今も臨床と並行して遺伝性の希少疾患を対象とした基礎研究を続けています。ご縁があって、新潟に戻ってからは脳研究所の研究室にもお世話になっています。臨床と研究のバランスをとるのはとても大変ですが、基礎研究で未知のことを追究する喜びは、臨床とは違った面白さがあります。そして、いつの日か、研究の成果を臨床の患者さんに還元できたらと思っています。

小児領域の大切な母子保健事業の一つとして、新生児マススクリーニング検査があります。近年、全国各地で対象疾患を拡大する動きがあり、新潟県内でも対象疾患の拡充が必要と考えました。上級医に相談しながら、数年前から行政や関係医療機関、検査センター等のご協力のもと準備を進め、2021年から実際に検査を始めることができました。体制構築にあたっては、多くの方々にご支援いただき、とても感謝しております。検査をきっかけに、早期診断・治療に結び付いた患者さんも見つかり、改めてスクリーニング検査

タイムスケジュール

- 5:30 起床・朝の支度。
- 7:30 子どもたちを送り出す。
一番下は夫とともに保育園へ。
- 8:15 出勤。
- 18:30 学童保育・保育園に寄って帰宅。
大急ぎで夕食の支度。
- 21:00～22:00 子供たち就寝。
- 23:30 就寝。

の意義を感じています。

プライベートでは、3児（小6長女、小2次女、年少長男）の子育て真っただ中です。一番上の子を出産したのは10年以上前ですが、最初の頃はとにかくがむしゃらで、小児科医といえども育児には全くの不慣れだったので、常にパンク状態でした。産後の職場復帰は2か月～9か月で、保育園に授乳に通いながらの仕事、睡魔との闘い、気力・体力の限界等々、大変なことがたくさんありました。そして、今も子育ての悩みは尽きません。十分な働きができないことも多く、周囲には迷惑をかけ続けていますが、皆様温かく応援してください、本当に感謝でいっぱいです。日々の家事・育児は、その日の子供たちの機嫌次第で、楽しいときも大変なときも紙一重です。青空だったのに急に暴風雨のようなこともしばしばで、私もつい一緒に吹き荒れてしまうこともあります。そんな生活でも子供は案外たくましく育つものだなと感心している今日この頃です。子供が増えるにつれて、夫のスキルアップも目覚ましく、育児でも家事でも内科医の夫は良きパートナーです。



馬場 みのり

新潟大学小児科学教室 医員

ちょっと息抜き

夫・実家の協力。乾燥機付全自動洗濯機、食洗機、ルンバ等の文明の力。帰りが遅くなった時用の冷凍食品。夕ご飯ができるまでに食べる、焼きおにぎり、パン、アイス、お煎餅等も欠かせません（無いと暴動が起きます）。

医師・研究者を目指す皆さんへ

私自身、上手に両立しているわけでもなく、まだ子育て7年目でしかないので大層なことは言えませんが、仕事は誰かに代わってもらえるけれど、母親は誰も代わることができません。キャリア形成は大事ですが、子どもに悪影響が出ないよう、完璧を目指さない、無理しすぎない、ことも大事かと思えます。自分が担えない分、必ず代わりに負担してくれている先生、家族がいます。その方達への感謝を常に忘れず、できる時にできる範囲で還元していくことが重要と思っています。

大切な事

子供との時間。平日は特に一緒にいる時間が限られるため、なるべく抱っこや頭をなでたり手をつないだり、スキンシップをとるようにしています。可能な範囲で子供の要望（夕ご飯のリクエスト等）を叶えるようにしています。

略歴

- 2010年 秋田大学卒業、初期臨床研修開始
- 2012年 新潟大学小児科学教室入局
- 2014年 結婚
- 2015年 小児科専門医取得。第1子出産
- 2016-2017年 夫の国内留学で大阪に転居。全休職期間：2年7か月
- 2018年 新潟県立がんセンター新潟病院復帰。
- 2019年 第2子出産
- 2020年 新潟大学病院パート勤務（夫：上越に単身赴任）
- 2021年 引き続き大学病院パート勤務（夫：大学病院）

キャリアについて

まだ小児科専門医を取得しただけで肩書もなく、キャリア形成…？（してるかな？）という感じなので、育児中心に書かせてもらえればと思います。長男出産後、専業主婦になりました。復帰後が心配で時々自学もしましたが、全く身につかませんでした（私の問題かもしれませんが）。復帰後を考えると、月1外勤等、何か細々と仕事をした方が良かったのかもしれませんが、2歳頃までは唯々可愛いだけでしたが、イヤイヤ期に入るとイラッとすることもあり、そんな自分が嫌になりました。仕事で離れる時間がある方が子供に優しくなれるのでは、と思いました。またどうしても母子2人きりになることが多く、私の価値観が色濃くなりすぎて子供の可能性を狭めるかもしれない、と心配もしました。一方、全て子ども優先で生活できる所はありがたく、子供のぐずりにも時間を気にせず付き合うことができました。復帰後は、子供に全てを合わせることはできません。大人の都合で急かしたり、やっぱりイライラしたり…。仕事で離れる時間があればその分優しくなれるなんて、全くの見当違いでした。保育園を何歳になっても嫌がり、仕事で遅くて寂しそうな姿をみると、何のために働いているのかな、という気分になりました。結局、ないものねだりでどんな境遇でも大変だ、と思ひ至りました。次男が生まれ、相加相乗で倍以上大変になるかと思いきや、出勤時間が少し遅くなったからか、長男の成長の賜物か、愉快的な次男のおかげか…意外と大丈夫でした。単に人数だけでなく、子供の個性や兄弟の相性で育児の大変

タイムスケジュール

- 5:30 起床・朝食・お弁当作り
- 7:00 みんなで朝食
- 8:00 すぎ 子どもを保育園に送ったあと病院へ
- 18:00 お迎え
- 19:30 夕食、入浴など
- 22:00 子どもたちと就寝

二人の子供





小児科学教室

03

羽深 理恵

新潟医療生活協同組合木戸病院小児科 医師

研究テーマ

小児感染症について

ちょっと息抜き

朝のコーヒー。この1杯で、仕事へ頭を切り替えています。

医師・研究者を目指す皆さんへ

医療・医学研究は社会的貢献度が高く、とてもやりがいのある仕事です。その分、専門性も高く、キャリア形成に時間と労力が必要です。時に家庭との両立が困難になり、くじけそうになることもあります。それでも、「自分はこう生きたい」という気持ちを忘れずに、疲れたらたまに休みながらも、続けていくことが大切だと思います。ぜひ、自分の思い描いた道を進んでいってください！

大切な事

家族との時間です。最近、ファミリーキャンプを始めました。キャンプでは、自然の中で一緒に料理したり焚火したり、満点の星空をみたり…子どもの笑い声に癒やされます。



キャンプ中

略歴

- 2008年 新潟大学医学部医学科卒業
初期研修開始
- 2009年 結婚
- 2010年 第1子出産
半年の育休後に新潟大学小児科学教室入局
後期研修開始
- 2013年 夫の海外留学に伴い、スウェーデンへ
カロリンスカ研究所で研究に触れる
- 2015年 帰国
半年臨床勤務後、新潟大学大学院へ進学
感染症の研究を行う
- 2016年 小児科専門医取得
- 2017年 第2子出産、育休
- 2018年 研究復帰
- 2019年 第3子出産、育休
- 2020年 研究復帰し、医学博士取得
- 2021年 臨床復帰

タイムスケジュール

- 5:00 起床・掃除、朝食、保育園の準備。
- 7:30 小学生出発、保育園組を送る。
- 9:00 病院勤務開始。
- 17:00 退勤、保育園へお迎え。
- 18:00 帰宅。洗濯、夕食、後片付け、入浴。
- 21:00 子どもたちと一緒に就寝。



朝のコーヒー

キャリアについて

キャリア形成については、自分がどの道を進みたいか、そのためにはどのような研修が必要か、など将来を見通して計画を立てることが大切です。例えば小児科では、2年間の臨床初期研修後に、小児科専門医取得のため3年間の後期研修があります。その後、サブスペシャリティとして、感染症、新生児医療や循環器などを学ぶことが多いですが、専門性を学ぶためには相応の研修が必要のため、予め上級医に相談し進路を決めていく必要があります。自分の学びたい道を決めかねる場合は、急ぐ必要はありませんが、ただ時を過ごすのではなく、周りの人の意見を聞いたり、情報を集めたりして、自分のキャリア形成について考えてみるといいかと思います。

また、女性として妊娠出産育児は大きなライフイベントであり、それまでとは生活が一変します。キャリア形成の道筋と合わせて、妊娠出産時期を考慮しておくことは重要だと思います。一方、妊娠は授かりものですので、いつ妊娠するかはわかりません。出産後の生活も思い描いていたものとは全然違うかもしれませ

ん。ある程度の道筋は考えつつも、臨機応変にその道を変えていくことも必要です。

私自身、一人目の出産のときはキャリアについては深く考えず、ただただ子どもができた喜びが大きかったです。子育てをしながらの仕事は想像以上に大変でした。それまで自分に割いていた時間の大部分を子どもへ捧げ、疲れて思い通りにならないことが多くイライラしたことも。同期より臨床経験も少なく、自信を失うこともあります。ただ、ゆっくりでも、自分が進みたいと思った道を歩んでいると思っています。夫や家族、また周りの方々から多くのサポートをもらっていることに、日々感謝しています。

一筋縄ではいかないけれど、自分が決めた道を、自分のペースで一歩ずつ進んでいくことが大切だと思います。

子育て支援制度について

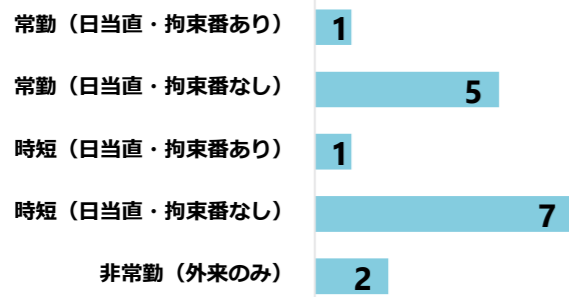
のアンケート調査(1)

◎小児科学教室の子育て支援制度とは？

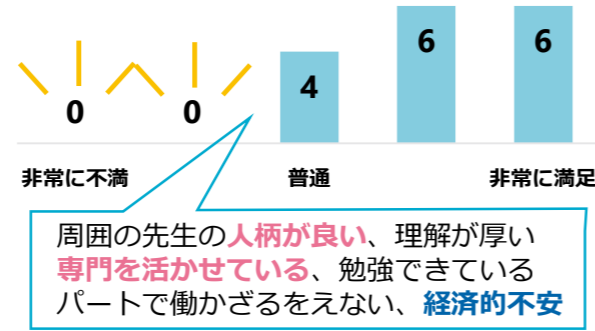
就学前の子供がいる医局員が利用できる制度。個々の事情に合わせて、時短勤務や当直・

支援制度を利用して勤務中の16名に聞きました！

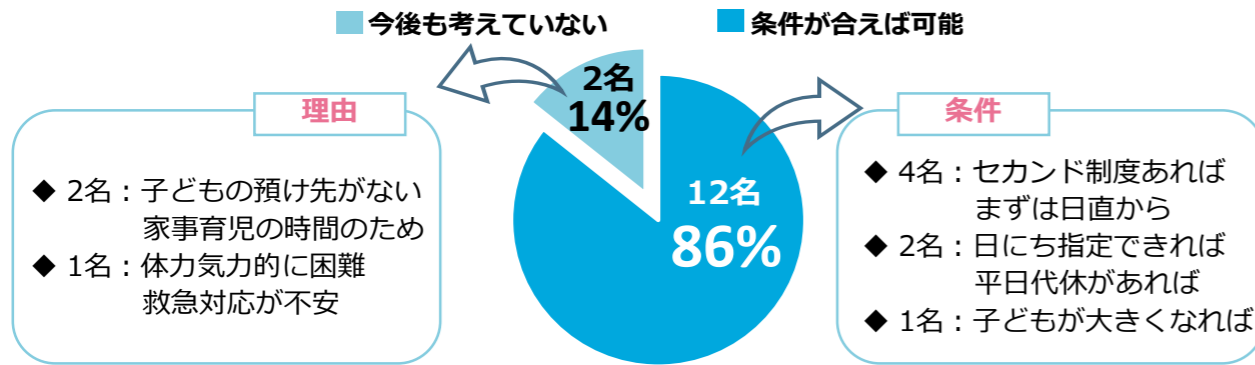
現在の勤務形態



現在の勤務状況への満足度



日当直・拘束番の復帰への考え（すでに日当直・拘束番ありの2名除く）



困っていること

仕事面

- ◆ 7名：仕事の制限 (例：働く時間に制限がある 重症患者をみない)
- ◆ 4名：時間外の検診会などに参加できない
- ◆ 2名：終わらない仕事の持ち帰り
- ◆ 1名：責任ある立場になりにくい

家庭面

- ◆ 5名：育児が犠牲になる
- ◆ 2名：気力・体力がもたない

働き方などに対する意見（自由記載、類似意見は包括）

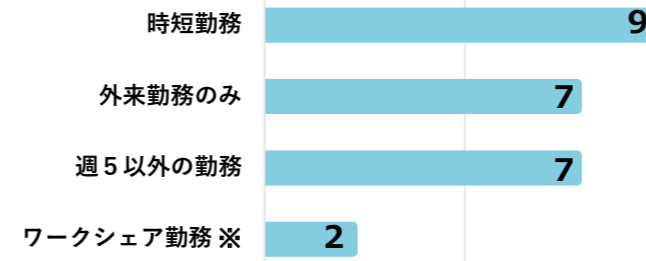
- ◆ **さまざまな事情の人も休めるような体制**を構築することで、支援枠医師も働きやすい (3名)
- ◆ 育休明けは、外来勤務の助勤からだど復帰しやすい
- ◆ 出産までの勤務期間が短期間だった場合、育児休暇がとれず退職扱いとなるため配慮してほしい
- ◆ 周りの先生に比べて負担が少なく、**申し訳ない**
- ◆ 産休育休中の**社会保障がない点が大変不安**
- ◆ **どのタイミングで専門領域の研鑽を積めば良いのか**悩む

拘束番の免除などフレキシブルな勤務が可能となります。

支援制度を受け入れている9病院に聞きました！

※現在支援枠医師を受け入れている全9施設の回答

支援枠医師が可能な勤務体制



※ワークシェア勤務 = 2人の支援枠の医師が1人分の仕事量として働くような勤務が可能

支援枠医師の日当直・拘束番について

※複数選択可

勤務体制	施設数
日当直・拘束番なしが可	4施設
日当直の日の指定が可	3施設
休日の日直のみでも可	2施設
拘束番を月1-2回	2施設

病棟の勤務体制 / 急な欠勤・早退の際のサポート体制

※複数選択可

勤務体制	施設数
主治医制	1施設
主治医制 (ただし副主治医制あり)	4施設
チーム制	4施設

サポート体制	施設数
急な欠勤/早退をサポートできる余裕はあまりない	2施設
他の医師が外来当番の交代が可能	4施設
他の医師や副主治医が担当患者の対応が可能	6施設
その他：一部休診にせざるを得ない事が多い	1施設

全ての関連病院に聞きました！

※大学病院、連携/関連施設の26施設の回答

今後の支援枠医師の受け入れ



多くの病院で支援枠に関して、前向きな回答を得られました。病院経営の面などから、今後の方針が不明の病院もありますが、支援枠の勤務先の選択肢は多くありそうです。

子育て支援制度について

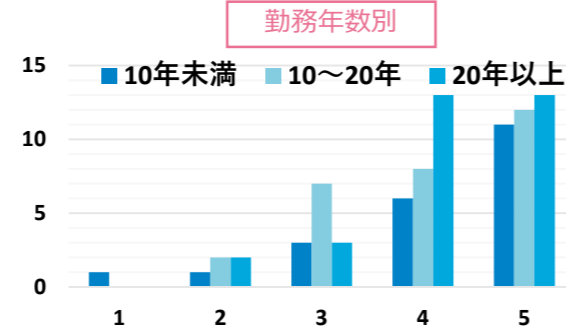
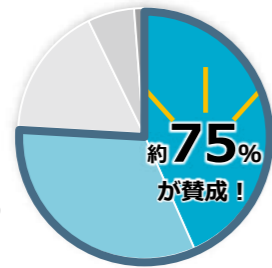
のアンケート調査(2)

支援制度について

※対象者136名中83名

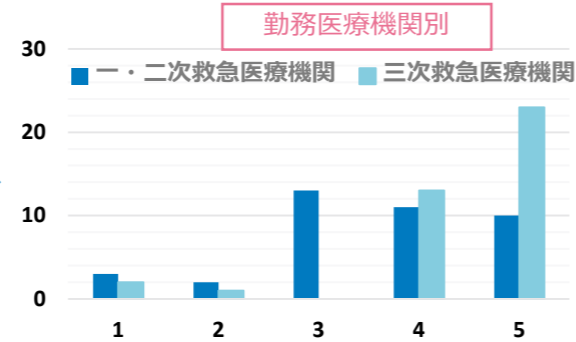
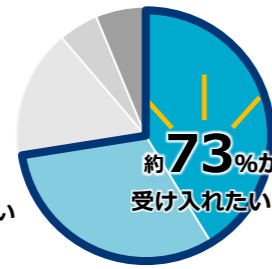
子育て支援制度についての考え

- 5 非常に良いと思う
- 4 良いと思う
- 3 どちらでもない
- 2 悪い制度だと思う
- 1 非常に悪い制度だと思う



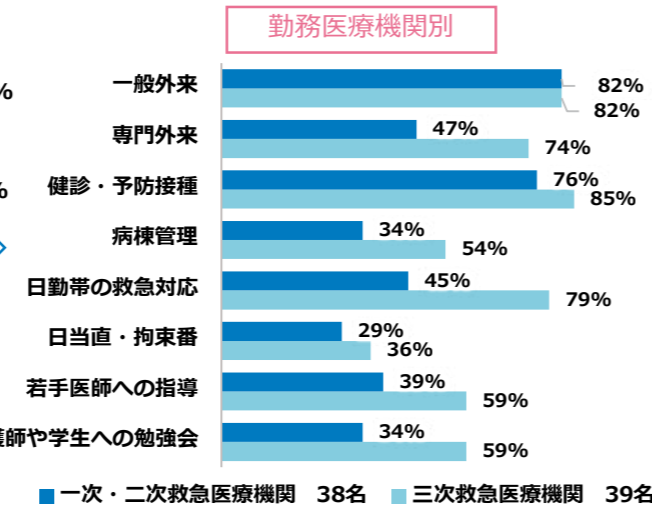
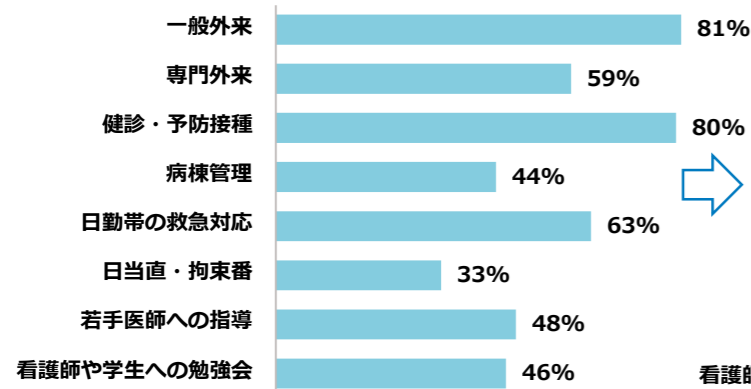
勤務先病院への支援医師の受け入れ

- 5 ぜひ受け入れたい
- 4 受け入れたい
- 3 どちらでもない
- 2 受け入れたくない
- 1 非常に受け入れたくない



支援枠医師に担当して欲しいこと・要望

※複数選択可



多くの先生方から好意的な意見をいただきました。支援枠医師には、多岐にわたる業務を積極的に行うことが求められていました。また、常勤医の勤務状況改善が、支援枠制度をよくするために必要であると考えられます。新潟大学小児科では、支援制度を含め、よりよい働き方を目指していきます!



局員に聞きました!

(61%) から回答

子育て支援制度で勤務している医師への率直な意見 (自由記載、類似意見は包括)

- ◆ 日勤帯の勤務だけでも助かる (11名)
- ◆ 常勤医師数としてではなく、支援枠医師が+aの人員となる場合は助かる(7名)
- ◆ 子育てが落ち着いたら、当直業務なども含めた仕事に戻って欲しい(5名)
- ◆ 地域医療勤務に配属されず、不公平に感じる(3名)
- ◆ 2名ずつ：
 - ・子育てによる業務の制限は仕方ない・気にしないで利用してよい
 - ・支援枠だから仕事ができないと割り切っていたり仕事への熱意、積極性に乏しいことがある
 - ・どういう働き方を希望するのか、対応可能な範囲を周囲に明確にするとよい
 - ・支援枠期間でも能力向上に努め、キャリアを途切れさせずに活躍して欲しい
 - ・子育ての経験を仕事にも役立てて欲しい
 - ・日頃から/結婚時から配偶者に育児・家事を参加してもらい、女性だけ休むという考えにしない

お互いによりよい制度するためのアイデア (自由記載、類似意見は包括)

施設の体制について

- ◆ 急な欠勤に備えてチームでカバーできるような体制作り (そのための余裕は必要) (9名)
- ◆ 常勤医が時間外勤務を減らしたり、休暇をしっかりとれる体制を作る(8名)
- ◆ 病院の集約化をすすめる必要がある (4名)
- ◆ 子供が病院内にいても良い空間を設ける (当直も可能な24時間院内保育など) (2名)

支援医師の働き方について

- ◆ 日当直・拘束番を少しはして欲しい (拘束番だけ/土日の日直だけでも、を含む) (14名)
- ◆ 常勤医との診療情報の共有・申し送り・コミュニケーションをしっかりと行う (6名)
- ◆ 専門外来をしてけると助かる (4名)

支援制度について

- ◆ 性別に関係なく、支援できる制度が必要、周囲もその認識が必要 (7名) (男性が育児休暇をとることで、女性医師の復帰が早まる、など)
- ◆ 4名ずつ：
 - ・子育て支援制度で勤務する期間の制限 (子どもが〇歳になるまで、など) が必要
 - ・一律な支援制度ではなく、個々人の状況により多様性を受け入れられる体制があるとよい
- ◆ 3名ずつ：
 - ・日当直・拘束番のある常勤医と給料や手当が同等なのは不満

耳鼻咽喉科・頭頸



堀井 新 先生

新潟大学歯学総合研究科
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 教授

耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室 目次

森田 由香 先生	新潟大学歯学総合研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 准教授 P16
高橋 剛史 先生	新潟大学歯学総合病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 専任助教 P18
八木 千裕 先生	新潟大学歯学総合病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 医員 P20
高橋 奈央 先生	長岡赤十字病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科 部長 P22

部外科学教室

メッセージ

医師と言う職業は、患者さんの命を救うという尊い、厳しい、けれども同時に大変やりがいのある素晴らしい職業です。そんな医師と言う仕事をいろいろな理由で継続できなくなってしまうというのは、本人にとっても社会にとっても大変悲しいことです。出産や育児など、特に女性医師がこういう難しい局面に立たされることが多いです。この問題は、本人任せではなく、医局として、病院として、社会として考え、サポートする必要があります。

教室の取り組み

耳鼻咽喉科・頭頸部外科についてご紹介させていただきます。日本の耳鼻咽喉科医は約1万人で24%が女性医師です。皮膚科医や麻酔科医と同程度の数ですが、あつかう専門領域が耳科、鼻科、聴覚、平衡、咽喉頭、頭頸部悪性腫瘍、音声嚥下と広く、また先天性難聴など新生児から、加齢による平衡障害を呈する老年期まで幅広い年齢の患者さんに対応しています。したがって、専門領域を考えると決して多い医師数ではなく、耳鼻咽喉科医は足りていないと言うのが現状です。女性医師が、出産や育児で仕事を離れ、またそれらが落ち着いたのに上手く復帰できない、と言うような事態は社会にとって深刻な危機と言うことになります。

新潟大学耳鼻咽喉科でも、女性医師の割合は全国と同じ程度で10名弱を推移してきましたが、最近では15名程度とやや増加しています。女性医師の勤務形態は、2000年以前には常勤か休職(出産・育児)のどちらかが多く占めていましたが、徐々に休職ではなくパート医師が増加し、最近はずぐに常勤復帰するようになってきました。現在、休職中の女性医師はいません。その意味では、医師としての役割を果たして頂いていると感じています。取り組みとしては、家庭と仕

事の両立が重要であることをみんなが理解し、互いを尊重し、助け合いの精神を持つことを実践しています。子供の入学式、参観日などでは家庭を犠牲にするのではなく大事にし、男性医師も女性医師も気兼ねすることなく休暇を取り、お互い助け合う土壌ができています。医局会や回診など全体で行う行事は17時まで済むようスケジュールしています。また個人としては、仕事が終われば速やかに退勤することを奨励しています。もちろん仕事の性質上、深夜まで勤務する必要がある場合もありますが。耳鼻咽喉科は医局員60名程度で大所帯ではありませんので、特に規則や取り決めごとはありませんが、上に述べたような取り組みである程度うまく行っていると思います。以下、耳鼻科医としての職務人と家庭人としての二つの役割をどう両立させているのか、女性医師だけでなく男性医師からのコメントも参考にして頂ければと思います。



Yuka Morita
森田 由香

新潟大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 准教授

研究テーマ

大学院のときに加齢性難聴に影響を与える遺伝子について研究、現在まで加齢性難聴にかかわり、認知機能との関連について研究を継続中。

臨床では、各種側頭骨手術に携わりながら、難治性中耳炎についての臨床研究を継続中。

ちょっと息抜き

ハンモックとビール。

一日の最後にハンモックに揺られて飲むビールは最高です♪

大切な事

ひとりの時間とみんなとの時間。

家族や友達と過ごす楽しい時間と自分が集中できるひとりの時間をしっかり区別するようにしています。

医師・研究者を目指す皆さんへ

医師は一生学び続けることができる仕事です。人生にはいろいろな局面がありますが、その状況に応じて柔軟にキャリアを継続してください。医療人としてのあなたを必要とする誰か必ずいますので。

略歴

- 1998年 新潟大学医学部卒業
- 2005年 新潟大学大学院医歯学総合研究科卒業
- 2011年 新潟大学医学部耳鼻咽喉科 助教
- 2015年 同講師
- 2021年 同医学部准教授

タイムスケジュール

- 5:00～6:30
起床・お弁当・朝食づくり。
- 7:30 出勤。 メールチェックと返信。
- 8:00～病棟治療・手術など。
- 15:00～会議。
- 18:00 メールチェックと返信。
- 19:00 帰宅、夕食準備、こどもたちと食事。
- 22:00 漫画を読みながら就寝。

キャリアについて

学生の頃や仕事をはじめたのばかり頃は、子供を育てながら仕事をするのは可能なのか、できるのか？ まったくわかりませんでした。30代で3回の出産を経験しましたが、結果的にはなんとかなりました。もちろん、家族、職場の同僚、上司の理解、支援の上であり、今でも感謝しています。子供たちも大きくなり、母がいなくてもOK（むしろいなくていい……）と快く仕事に行かせてくれる年齢になりました。

継続は力なり。20代、30代のまさに医師として成長中のときはあまり実感がありませんでしたが、振り返ると続けていたことこそが、今のキャリアの礎です。ライフイベントによっては、一定のペースで継続することが困難な場合もあります。しかし、今は柔軟な働き方が可能になってきましたので、せっかく取得した医師免許を有効利用してもらいたいと思います。好きなことは比較的続けやすいですので、興味があることややりがいがあることを見つけることが続ける秘訣です。医師は一生学び続けることができる仕事です。それぞれのステップに応じた役割が必ずあると思って、今も仕事を継続しています。



耳鼻咽喉科・
頭頸部外科学
教室

05

Takashi Takahashi
高橋 剛史

医歯学総合病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 専任助教

研究テーマ

専門：頭頸部癌。

研究：近赤外線による副甲状腺自家蛍光分子の解明と活用。

ちょっと息抜き

映像作りが趣味で、耳鼻科医局のYouTubeチャンネルを運営しています。動画編集のためにMacBookを一日中持ち歩いています。

大切な事

できるだけ早く帰り、家族と一緒に夕食をとります。妻は「別で夕飯を準備しなくて楽だ」と喜びます。

医師・研究者を目指す皆さんへ

「幸せ」は人それぞれと思いますが、私の胸にストンと落ちた幸せの定義は「自分が周囲の人の役に立っていると実感できること」です。患者さんの治療は、人の役に立っていることが実感しやすい仕事ですね。そして医療は、先輩から知識と技術を学び、後輩に伝授していく師資相承の世界ですので、教育の瞬間にも幸せを感じることができます。さらに、医学研究は、自分が直接関わることのできない世界の人々の役に立つことができます。ぜひ若い皆さんにも、この幸せを共有できたらと思います。

略歴

- 2009年 新潟大学医学部医学科卒業
初期臨床研修開始
：新潟大学医歯学総合病院
- 2011年 新潟大学
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 入局
新潟大学医歯学総合病院 勤務開始
- 2015年～2017年
がん研有明病院頭頸科 国内留学
- 2019年～新潟大学
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 専任助教
*子供3人

キャリアについて

新潟大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科の医局に所属し、10年が経過しました。入局当初と現在では職場の環境がかなり変化し、以前に比べ格段に働きやすくなりました。出産や育児、介護などを仕事と両立させるためには、当事者だけではなく周囲の理解、人間的・時間的・精神的な余裕が必要と思います。そのためにも、医局の働き方改革は最重要課題です。以下、変わった点をいくつか。

- ・教授回診と科全体のカンファレンスが週二から週一に減った。
- ・若手医師は病棟業務、上級医師は外来業務と若手医師のサポートと、分業が明確になった。
- ・土日は日当直の当番制になり、月に2～3回は週休二日になった。
- ・耳鼻科医が一人で業務する病院を削減し、一病院あたりの人数を増やした。
- ・大学病院勤務の医師の収入が増えるよう、他病院への応援勤務を調整した。
- ・将来展望や勤務希望について、年に一回、教授へ相談する機会があり、ライフプランに合わせた職場配置が考慮されやすくなった。

etc.

タイムスケジュール

- 7:00 起床。
- 7:30 出勤。
- 8:00 病棟業務、手術。
- 13:00 他病院での応援診療。
- 16:00 病棟業務、カンファレンス。
- 19:00 帰宅。夕食と家族団楽。
- 21:00 自己研鑽、書類業務。
- 23:00 就寝。



耳鼻咽喉科・
頭頸部外科学
教室

06

Chikiko Yagi
八木 千裕

医歯学総合病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 医員

研究テーマ

持続性知覚性姿勢誘発めまいという慢性めまい疾患の病態解明を目指して研究を進めています。
海外では「スーパーマーケットシンドローム」などとも呼ばれ、大型店舗にずっと並ぶ陳列棚を見たときにめまい症状が悪くなります。その他、動きの激しい動画を見たり、乗り物やエレベーターなどに乗ったりした時にも症状が悪くなります。普通の乗り物酔いや、3D酔い、宇宙酔いと何が違うの？同じなの？など考えながら、楽しく研究を進めています。

医師・研究者を目指す皆さんへ

仕事を続ける理由は人それぞれですが、やりがいや楽しさは、続けるための大きな原動力になります。そして医師という仕事は、探せば必ずやりがい・楽しさを見つけれられる仕事だと思います。行き詰ったら、とにかく色々な人に話を聞いてみるという勇気を、持ち続けて欲しいなと思います。

略歴

- 2009年 新潟大学医学部医学科卒業
初期臨床研修開始：
新潟大学医歯学総合病院
- 2011年 新潟大学耳鼻咽喉科
・頭頸部外科学教室 入局
新潟大学医歯学総合病院 勤務開始
- 2012年 第1子出産（長女）
・妊娠判明直後から日当直免除
・産後1年間育児取得
・育休後フルタイム勤務で復帰
日当直免除
- 2015年 夫の転勤に伴い日本海病院（山形県）
勤務開始
・平日5日間、外来診療のみのパート勤務
- 2016年 第2子出産（次女）
・産後半年間育児取得
- 2017年 夫の転勤に伴い
新潟大学医歯学総合病院勤務開始
・育休後半年間、週1日外来診療のみの
パート勤務
・産後1年でフルタイム勤務開始
日当直免除
- 2019年 新潟大学大学院医歯学総合研究科 入学

タイムスケジュール

- 6:30 起床。
- 8:00 出勤。
- 9:00 外来業務開始。
- 14:00 研究業務開始。
- 18:30 子供をお迎えして帰宅。
夕食、入浴、洗い物、洗濯、
翌日の夕飯準備、寝かしつけ、書類仕事等。
- 24:00 就寝。

ちょっと息抜き

英語は話せませんが英語の勉強は好きなので、隙間時間にできる英語学習アプリが必携です。

大切な事

一緒にいられる時間が短い分、子供が話し始めたら、目を見て話を聞くようにしています。自分にとって、大切な時間です。

キャリアについて

小さいころから体が弱く、中学生までちょこちょこ入院したりして、「お医者さんかっこいいなあ」と医師を目指しました。医学部5年生で耳鼻科の耳小骨を扱う手術をみて、「え、こんな小さい骨いじるの？すごくない？」と思って興味を引かれ、6年生でお腹が大きいのにバリバリ働いている耳鼻科の女性医師に出会い、入局を決めました。つわりで苦しいけど仕事をセーブしたら迷惑がかかると思っていたその時に、「自分から休みたいと言う訳ないから、上から言って休ませなきゃ駄目です。」と進言してくれた上司がいました。育休から復帰後医師として満足な仕事ができなくて、自分が医者である意味は果たしてあるのかなと思っていたら、「誰でもずっとは頑張れない。続け

ていることに意味がある。」と言ってくれた先輩がいました。

周囲の素敵な人達に憧れて、支えられて、役に立ちたくて、今の自分があります。医師として崇高な目標や誇りがある訳ではなく、病気で苦しむ患者さんのためにと身を粉にして働けない自分を恥ずかしいと感じる日も多いですが、それでもできることはあると信じて続けています。続けてみようというちょっとの思いがあれば、どうにかこうにか色々やり方はあるものです。具体的なアドバイスがなくて恐縮ですが、こんな風に考えて、キャリアを形成していくのもありなのだなど、知って頂けたなら幸いです。



高橋 奈央

長岡赤十字病院 耳鼻咽喉科部長

研究テーマ

嚥下、音声、気道関連の咽頭喉頭が専門分野で、大学での臨床研究テーマは咽頭異常感です。

ちょっと息抜き

いい香りのするものが大好きです。私はお香やアロマテラピーで日常を忘れぼーっとしてする時間があるとリフレッシュできるようです。

医師・研究者を目指す皆さんへ

最初はうまくいかないことも多いと思います。とにかく続けているとある日急に楽しくなってくる時が来ると思います。自分も含めて根詰めすぎずにモチベーションをもって頑張ってください！

大切な事

寝る前のひとときに子供に読み聞かせをするのを大事にしています。

会える時間が少ない分スキンシップを心掛けています。家に帰った時に寄ってきてくれる子供の笑顔が元気の源です。

略歴

1. 福島県立医科大学医学部卒業
2. 横浜市立大学研修医
3. 横浜市立大学耳鼻咽喉科に入局
4. 結婚を機に新潟大学耳鼻咽喉科に転局
5. 大学病院ならびに関連病院勤務
6. 大学勤務中に臨床研究、学位取得
7. 長岡赤十字病院 耳鼻咽喉科部長

タイムスケジュール

- 5:00 起床・朝食、夕食づくり。
6:00 出発。
7:10 病院到着。
ネットのチェックなどをしています。
8:00 外来、病棟診療、手術。
19:00～20:00
帰宅 夕食、家族との時間。
22:00 就寝。

キャリアについて

出産後復帰したのは県内の関連病院で手術のお手伝いという形で復帰しました。長い休暇のあとで手術見学をかねた形で復帰することができたため負担が少なかったのがありがたかったです。

その後大学でフルタイム勤務し、自分の専門分野をもち臨床研究を開始しました。その研究をきっかけに海外の学会に発表する機会があり、ありがたいことに賞をいただくことができました。さらに学位も取得することができました。ご指導いただいたことや研究テーマを与えられたことは本当にありがたかったです。自分だけのテーマがあるというのはとてもうれしいことでした。

実感するのは子供がいる状態で仕事をするのは家族の協力が一番と思います。私は夫だけではなく祖父

の多大な協力があっいままで過ごせていると感じます。

とはいってもなかなか自分の思い通りにことがすすまずあきらめなければならないこともたくさんあり、落胆することも多かったですが次第にあきらめず次の機会をまつというメンタルももてるようになり精神的に楽になりました。

毎日いまだに自分の中では戦ってはありますが仕事をしていて新しい知識や技術を得る、なにか進んでいる実感をもてるというのが自分の中ではモチベーションになっており仕事を続けていられる理由になっていると思います。

呼吸器・感染症

内科学教室

メッセージ

女性医師のライフイベントに限らず、みなさんそれぞれ多くの事情を抱えながら、医療を支え続けていこうとされています。また私的な事情もさることながら、どのような医療に携わっていきたいのかも、みなさん様々だと思います。そして、その多様性を理解して折り合いを付けることが、組織には今求められています。「ひと尋の会」を通じて得られた意見や診療科の取り組みについての情報を、是非当科の体制整備に生かしていきたいと考えております。

教室の取り組み

当科を取り巻く状況は、対象患者数が多く仕事の充実度も高い反面、全国的に需要に比し呼吸器専門医が少ない、という現状です。さらに地域の偏在も加わって、新潟の呼吸器や感染症の専門医数は決して十分ではありません。その中で女性医師は当科所属医師の2割を占め、新潟の呼吸器医療にとって女性医師の力は必要不可欠です。

当教室では「教室員のための教室」になるような教室運営を心掛けております。教室員も増えてきており、とても活気のある教室となってきました。マンパワーの増加に伴い、働き方のダイバーシティもより手厚く対応できるようになってきています。多様な女性医師ロールモデルがおりますので、個々の女性医師に応じた働き方を提案して、ライフイベントとキャリア形成の両立をサポートしています。具体的に診療面では、チーム医療と当番制の休日対応でONとOFFを明確化し、家庭と職場を両立しやすい環境を整えています。また研究面では、研究活動に専念する期間をライフイベントに合わせて確保できるように支援しています。女性医師は当然ながら、ジェンダーに関わらずすべての医師が気持ちよく働き続けられるような環境を目指して、日々取り組んでおります。

菊池 利明 先生

新潟大学医歯学総合研究科
呼吸器・感染症内科学教室 教授

呼吸器・感染症内科学教室 目次

高橋 美帆 先生 済生会新潟病院 呼吸器内科 医長P26

張(大矢) 仁美 先生 新潟大学医歯学総合研究科 呼吸器・感染症内科感染管理部 医員P28



Miko Takahashi
高橋 美帆

済生会新潟病院呼吸器内科 医長

研究テーマ

癌免疫療法の開発をしています。

ちょっと息抜き

お菓子とコーヒー、ハンドクリーム。

大切な事

こどもの成長、家族に感謝、友人との近況報告。

医師・研究者を目指す皆さんへ

新潟大学の呼吸器・感染症内科にはアレルギー・喘息、感染症、呼吸生理、腫瘍、心身医学、びまん性呼吸器疾患とグループが複数あり、呼吸器疾患の幅広さ、面白さを味わうことが出来ます。臨床、研究、教育が活発に行われ、海外、国内留学などの挑戦も可能です。まずは気軽に覗きにきてください。是非一緒に考え、進んでいきましょう。

略歴

- 2011年 福島県立医科大学医学部 卒業
- 2011年 新潟市民病院初期研修 開始
- 2013年 新潟県立中央病院呼吸器内科 研修
- 2014年 新潟大学呼吸器感染症内科 入局
- 2015年 新潟大学大学院 入学
マウス実験を引継ぎ研究開始
- 2017年 出産
- 2018年 新潟大学大学院 復帰
臨床研究中心+マウス
- 2019年 新潟大学病院 病棟復帰
- 2021年 済生会新潟病院 勤務

キャリアについて

私は初期研修中ががん診療にあたる指導医の先生方に影響を受け、呼吸器・感染症内科に入局しました。途中で1年間臨床や研究を休んだ後、再度戻り、現在は市中病院で呼吸器内科の臨床で、病棟・週1.5回の呼吸器内科外来を担当しています。日々の研鑽不足をかみしめ、出来ないことに目をつぶり、出来ることを精一杯努め、長い目で自分のキャリアを大事にすべく過ごしています。

研究に関しては、臨床に慣れ始めた頃に開始しました。指導の先生、研究室の方々にパソコンの使い方に始まり実験、研究の醍醐味、仕事の流儀を教わりました。アメリカ癌学会でのポスター発表を指導頂き、実験内容は周囲のサポートのおかげで昨年論文となり、大学院を卒業予定です。免疫療法の台頭や分子標的薬の発展が臨床現場でも著しく、そのつながりを感じながら免疫への興味が増えました。

プライベートでは、夫と保育園に通うことも、自分の実家に助けをもらいながら、こども中心の生活の中で極上の幸せと辛さを味わっています。乳児期はこどものペースに合わせるため睡眠不足や孤独感に悩まされ、幼児期となった今は生活サポートに時間と体力を要しています。時に園から体調不良の呼び出しもあります。これからの学童期はより成長に添う対応が必要になりそうです。

タイムスケジュール

- 6:30 起床・朝食、支度。
- 7:40 自宅を出発、保育園経由で出勤。
- 8:30 ぎりぎり出勤、病棟業務。
- 13:00 昼食、医局でヘルシー弁当。
- 16:00 科内で引継ぎ、適宜回診。
- 18:30 保育園経由で帰宅。
- 19:00 夕食、入浴。
- 21:00 こども就寝、片付け、(自由時間)、就寝。

私自身とこどもの生活のバランスを考え、大学院の研究復帰、大学病院の病棟復帰以後、平日日中のみの対応を希望し対応頂いています。病棟では電話を含む時間外対応をチームや当番の先生方をお願いでき、医局やチームからのサポートを本当に有難く思っています。

当科には大学にも市中病院にも女性医師が多数在籍し、臨床の場で指導的立場であったり、各専門分野や外来に特化し力を発揮したり、研究に専念したり留学したりと様々です。臨床・教育・研究などの仕事、自分、家、趣味、家族、友人の事など、どこに力を注ぐか、またそのタイミングは変化するものと思います。医局のつながりを通じて、経験豊富な先輩方と情報を共有したり、業務調整という実際の場面でサポート頂いたりしています。当科は人数が増えており、どんな人でも自分の希望を明確に伝えることで、もちろん全て望み通りは難しくも希望に沿った対応がしやすいことも強みだと思います。



Hiromi Chen
張 仁美

新潟大学医歯学総合研究科呼吸器・感染症内科 医員

研究テーマ

AST (Antimicrobial Stewardship Team: 抗菌薬適正使用支援チーム) と ICT (Infection Control Team: 感染制御チーム) の活動を中心とした感染症診療です。

上司へのメッセージ

出産、妊娠は女性の特権ですが、育児は女性だけでなく、夫婦で取り組まなければならない問題です。男性医師にも仕事と育児と両立するためのバックアップ体制は必要であり、それは医師だけでなく、すべての職種の方にも言えることだと思います。今後、医局、さらには大学全体の取り組みとして、子育て支援の体制がより充実することを期待しています。

大切な事

読書 (主に漫画)、映画鑑賞、リサイクルショップ巡り。読書は子どもたちが寝てから、映画鑑賞は休日に子どもたちと一緒に観ます。

また夫も休みで時間があるときは、息子の好きな昔の戦隊ものや仮面ライダーのおもちゃを探しに、リサイクルショップ巡りをします。お目当てのものや予想外の掘り出し物を見つけたときの子どもの喜ぶ顔がみたくて、一生懸命探してしまいます。宝探しをしているみたいで楽しいです。

略歴

2004年 帝京大学医学部卒業
新潟大学医歯学総合病院にて初期研修開始
2006年～新潟大学第二内科 (現・呼吸器感染症内科)
入局、新潟県内の関連病院勤務
2014年 新潟大学大学院医歯学総合研究科
博士課程修了 第1子出産
2015年7月～
新潟大学医歯学総合病院感染管理部勤務
2016年 総合内科専門医、呼吸器専門医取得
2017年 感染症専門医取得 第2子出産
2018年4月～ 復職

キャリアについて

初期研修終了後、第二内科 (現呼吸器感染症内科) に入局し、専門分野として感染症を選択しました。しかし呼吸器内科医としての業務に追われ、感染症をじっくり学ぶ余裕と気力、体力もなく、感染症の知識が十分に身につかないまま月日は過ぎていきました。

そして第1子を出産。産後はなるべく早く復帰しようと思っていましたが、出産を終えると、子供と過ごす時間を大切にしたいという思いが強くなり、仕事復帰に対して消極的になっていました。しかし医師でもある母から、復帰が遅いほど、後で苦労する。少しでも早く復帰して、どんな形でも良いから医療に携わっていた方が絶対に良いと言われ、後ろ髪をひかれる思いで復帰を決意しました。ただ家庭の状況からは病棟勤務は難しく、働き方について悩んでいたところ、感染管理部にお誘いいただき、専門性を高めるチャンスだと思い、感染管理部で勤務することを決めました。

すでに子育てと両立しながら勤務する女性医師のロールモデルがあったので、それを参考にしつつ、自分の条件に合わせ勤務を開始することができました。

業務としては、多職種と連携しながら、主にAST活

ちょっと息抜き

スタービー。
大好きなスタービーグッズにいつも癒されています。私がスタービー好きであることを子どもたちも知っているため、ゆく先々でスタービーを見つけるとすぐ教えてくれます。

タイムスケジュール

6:40 起床して朝食。
7:30 夫、長女出発。
8:20 保育園送り。
9:00 出勤。(外勤先で診療業務)
12:00 外勤終了。
13:00 感染管理部にてAST/ICT活動など。
17:00 退勤。
18:00～22:00 帰宅し、夕食と家事。
23:00 就寝。

動 (抗菌薬適正使用支援と感染症治療業務)、ICT活動 (感染対策業務) を中心に感染症診療を行っています。また週3回の外勤では、一般内科として外来診療を行っています。

感染管理部での業務は、通常の病棟や外来診療とは異なるため、物足りなさや医師としてのやりがいを感じられないのではないかとされる方もいるかもしれませんが、今までできなかった感染症診療に重点的に取り組むことができ、また多くの症例のAST/ICT活動に携わることで、家庭を優先しつつも、感染症専門医も取得することもできました。現在はCOVID-19関連の業務も加わり、微力ではありますが感染管理部の活動に貢献することもでき、私自身は今の働き方を選択したことは間違いではなかったと思っています。

おそらく、私の働き方はゆるキャリに当てはまると思います。バリキャリを理想としていた時期もありましたが、子供の成長や周りの環境に合わせ、ライフプランは変化していきます。今は自分の置かれている状況に適した働き方を選択することで、長く、無理なく、医療に携われればと思っています。



呼吸器・感染症内科教室の取り組み



新入医局員の増加

毎年10人前後の新入医局員が入局する活気のある教室です。



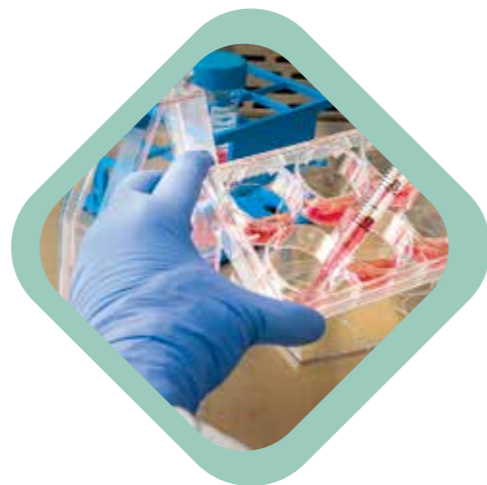
多様な働き方の提案

ライフイベントとキャリア形成の両立をサポートします。



チーム医療の実践

チームで診療しています。休日は当番制を導入し、ONとOFFの明確化を目指します。



研究活動支援

希望者には様々なタイミングで研究活動に専念する期間を確保します。各種インセンティブ制度を導入しています。

これまでのひと尋の会

Virtual Café ポスター集

Virtual Café
ひと尋の会
小児科学教室開催

2021.6.1.火
16:00~17:00 at Zoom

【ご挨拶】 染矢俊幸先生(ひと尋の会会長・医歯学系長・精神科)
齋藤忍彦先生(新潟大学小児科)

【トークイベント】
子育て中の小児科医の働き方(新潟大学小児科)

【ひと尋ポイントコーナー】
人生、仕事、育児、介護に役立つ情報を皆さんで話し合います!

参加費無料
お菓子付き

事前申し込み
<https://forms.gle/TTXJyN4vMNGrCdv5>
主催：新潟大学医歯学系長・医歯学系長・医学系学術的キャリア支援委員会「ひと尋の会」
新潟県女性医師会支援センター・新潟大学医学部

第4回 小児科学教室

～意見・感想～

- ・ 現状と課題を共有することはとても大事で、素晴らしい機会だと思います。
- ・ 染矢教授から医学部に病児保育や保育施設(歩保保育園とは別に?)設置への動きがあると聞き、非常に心強く感じた。家族や実家の支援以外にベビーシッターなどの利用が少ないと感じたが、ハードルを下げるにはどうすればよいか、県医師会ではベビーシッター事業者との協働も考えていたが、活動が停止してしまったので、是非若い医師の希望などを聞きたいです。
- ・ 男性育児休業やいわゆる働き方改革を率先している医師以外の業種の方(海外の事例なども?)の講演など。医師には(日本では)それは無理だ、という言い訳をしてしまうとそこで思考停止し、何も生まれない・変わっていかない(むしろ変えたくない人たち=家事をしたくない男たち、もいるのでは?)と思いますので、いろいろな業界・国の経験を幅広く知ろうとすることは重要だと思います。
- ・ フリートークの時間がもう少しあってもよいと思います。
- ・ 男性医師からの発表もきいてみたいです。
- ・ 男性医師の育児環境や育児支援の状況について。
- ・ 若手男性医師の育児介護や院内保育園設置に向けた取組について。
- ・ 男性医師は正直、育児や家事についてどのように考えているのか

ひと尋の会
Virtual Café ver.6

呼吸器・感染症内科学
2021.9.28(火)

【開会の挨拶】
染矢 俊幸 先生(ひと尋の会会長・医歯学系学長・精神科教授)
堀地 利明 先生(呼吸器・感染症内科教授)「医学分野のダイバーシティのあり方」
大嶋 康義 先生(総括医長)「新潟県における呼吸器内科医の現状」

【トークイベント】
高橋 美帆 先生
張 仁美 先生
青木 亞美 先生

【ひと尋ポイントコーナー】
お茶、お菓子 いただきます

7月23日までに登録した方へ
お茶、お菓子 いただきます

登録サイト
<https://forms.gle/JCKemalcPQAbyz2T8>

第6回 呼吸器・感染症内科学教室

～意見・感想～

- ・ 女性医師の活躍には、男性医師も含めた働き方の継続可能性が重要になると思います。
- ・ 近い将来の働き方改革への対応など、大学病院としての考えを聞く機会になれば参考になります。
- ・ 仕事が終わらず途中参加となり申し訳ありませんでした。
- ・ 実際に子育てとお仕事を両立されている複数の女性医師の方からお話を聞くことができ、大変良い機会でした。次回以降もし可能であれば、新潟市以外の市中病院で働かれている方で、子育てもされている方からお話を伺ってみたいです。

第5回 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室

～意見・感想～

- ・ 現在は医学生ですが、医師になった際の育児や家庭のことについてどのように対処しつつキャリアを積み重ねていくかのロールモデルを提示していただき、大変参考になりました。大変なときに頼れる相手がいるというのはとても重要なことで、そのような家族がいらっしゃる先生方が羨ましく思うとともに、自分も頼れる相手を作っておかないといけないなと思いました。
- ・ 八木先生の発表で、他国の育児・家事に対する考え方の内容があったのですが、とても興味深い内容でした。今回はOlga先生の話も少しお聞きできましたが、機会があれば、是非アメリカで働いた経験のある医師(もしくは現在勤務している医師)のお話も聞いてみたいです。
- ・ 別の会があり、途中までの参加でしたが、とても良い内容でした。色々な状況で頑張られている先生がその状況をどう克服されてきたのかを知るのとはとても大事で、皆の励みになることと思います。
- ・ 毎回、若い女性医師の熱意ある講演に感激しています。この素晴らしい企画により多くの医師に参加していただくために、各医局に男女共同参画担当者などを選出してもらい、医学部全体で共有していただきたいと思っています。

ひと尋の会
Virtual Café ver.5

2021.7.27.火
16:00~17:00 at Zoom

耳鼻咽喉科・頭頸部外科の先生方による講演会

【開会の挨拶】
染矢 俊幸 先生(ひと尋の会会長・医歯学系学長・精神科教授)
堀地 利明 先生(呼吸器・感染症内科教授)

【トークイベント】
子育てしながらのキャリア形成、育児休業取得後の生活について(新潟大学小児科)
子育てしながらのキャリア形成、育児休業取得後の生活について(新潟大学小児科)
子育てしながらのキャリア形成、育児休業取得後の生活について(新潟大学小児科)

【ひと尋ポイントコーナー】
お茶、お菓子 いただきます

7月23日までに登録した方へ
お茶、お菓子 いただきます

登録サイト
<https://forms.gle/78xBUH1pbV8JRp9AA>

発刊に寄せて



河内 泉 先生

新潟大学大学院医歯学総合研究科

医学教育センター・脳神経内科 准教授

新潟県女性医師総合支援センター新潟大学医学科分室 事務局

新潟大学旭町キャンパス医師・研究者・医学生のキャリア支援 ひと尋の会 事務局

メッセージ

新潟大学医学部は、自由闊達な学風、地方にいなながらも卓越した研究・教育環境をもとに多くの医師を養成してきました。各分野のロールモデルは自らの目標を見据え、きらきらと輝いています。人生には、良いときも、そうでない時もあります。皆さんが寄り添うことで、多くの癒やし、多くの智慧、多くの楽しみが生まれます。是非、インクルーシブな社会を一緒に創っていきましょう。第二弾の刊行にご協力をいただきました先生方に心から感謝いたします。

